



## プロジェクト名称

# 石垣島を元気にするプロジェクト

## プロジェクト活動概要

本プロジェクトは、日本を代表するサンゴの生息地である石垣島を対象地とし、サンゴ礁保全を目的とした活動をしている。現在石垣島では、沖縄特有の表土である赤土がサトウキビ畑やパイナップル畑などの農地から海へ流出し、サンゴ礁が死滅・白化する問題が深刻化している。農地からの赤土を抑制するには農家による農地対策が必要である。そこで私たちは農家の収益を向上させることで、農地対策を取り組みやすくするシステムを考案し「地産地消マップ」を作成した。このマップを島民や観光客を対象に7500部配布し、島民の方々から高い評価を受けたことで、相互信頼を得ることができた。このことで現地の高校生や石垣市観光協会と協力し、昨年度は島民のサンゴ礁保全の意識啓発を目的とした「サンゴ不思議発見！」というイベントを開催することができた。このイベントは二部構成であり、第一部では各ポイントでクイズやアクティビティに答えてキーワードを集める「サンゴSHOW」を、第二部では白化したサンゴを用いて第一部で感じたことを表現する「サンゴアート」を行い、イベントを通して参加者に石垣島のサンゴ礁の恩恵と現状を楽しみながら知ってもらった。また、今回のイベントで若い世代の参加者がサンゴに対して非常に意欲的であると同時に、自身だけでなく親世代にまで刺激を与えると感じたため、今年度は小学生とコラボした農地対策を企画している。イベントやマップ以外にも、全国大学生環境活動コンテストをはじめ、様々な場所でプレゼンテーションを行い、自分たちの活動を発信するためにTVや新聞等のメディア出演も行って来た。今後もマップやイベントはもちろん、島全体を巻き込んだアクションを起こしていく。

## 活動状況報告&活動写真など 活動期間：2013年6月 日～9月30日

6月9日、武蔵大学にて第8回若者と市民の環境会議が行われ、本プロジェクトも参加させていただいた。企業、高校生、地域団体などを含め計9団体がそれぞれプレゼンテーションを行い、互いの活動についての理解を深め合うことができた。また、他団体の活動を知ることで今後の活動に活かす情報を得ることができた。

7月13日には助成金を出していただいている、ソニーマーケティング株式会社、学生ボランティアファンドによる報告会に参加した。多くの団体が参加している中で活動内容についてのプレゼンテーションを行い、数々の貴重な意見をいただいた。またその後には、交流会やグループディスカッションが行われ、たくさんの学生団体とコミュニケーションをすることで自分たちの活動を見直すきっかけとなり、同時に強い刺激を受けた。



SD研（7月22日）やナジックウェルカムパーティー（7月4日）と、それぞれプレゼンテーションや活動報告をしていただいた。普段接点のないような地域団体、企業、学生団体、ボランティア団体の方々と交流することで、それぞれの立場からの意見をもらい、活動意欲に対する刺激となった。

9月3日～20日までの17日間は、計12人のメンバーを3組に分け夏期現地調査を行った。そこで今後行う予定である小学生との農地対策についての複数案を農家さん、他団体の方、専門家の方から意見をいただき、最終的に「フラワーベルト」に決定した。フラワーベルトとは、赤土が流出する畑の周りをヒマワリなどの花で囲い、景観を良くするとともに花による副産物を収穫でき、かつ赤土流出の抑制が期待できるものである。これを小学校へ提案した結果、11月に環境教育の実施と、フラワーベルトによる農地対策を授業の一環で行う方向で検討していただくこととなった。またそれらの活動と並行して地産地消マップに掲載されている直売所や農家さんにヒアリング調査をし、新地産地消マップに向けての改善点、変更点の確認を行った。渡航前に私たちができると思っていたことでも、実際の農家さんに企画を見ていただくことで、私たちのなかでは出てこなかったような意見もいただくことができた。逆に「このようなのはどうだろうか？」などと提案していただくこともあり、より取り組みやすい企画に改善することができたのではないだろうか。それと同時に、自分たちの企画に対する詰めの甘さも深く実感した。



ソニーマーケティングでのプレゼンの様子



島民へのヒアリングの様子

## 今後の活動計画、目標、意気込みなど

現在は今回現地調査で得た情報を整理し、企画内容の見直しをしている。またフラワーベルトに使用するヒマワリの品種など新たに調べるものを確認している。今後は11月に行う予定である事前環境学習へ向け、小学生が飽きずに楽しんで学んでもらえるような五感を使った授業を考えていく予定である。今年の3月に行ったイベントの反省をふまえ、地元根付く企画にするため努めていきたい。

また、昨年手をつけることができなかった新地産地消マップに関しても、今回の調査を元に修正、改善を行う。そして前回のマップでの農家さん、直売所、食堂をつなげたシステムの問題点をうまく改善することで、農家に利益が還元され、かつ、サンゴ礁保全へと繋げられるようなシステムを考えていきたい。